

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	オマエって誰？ : 日本語の第二人称代名詞・対称詞
Author(s)	'
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 22期 : 94 - 104
Issue Date	2008-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038822">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038822</a>
Right	
Relation	



# オマエって誰？ －日本語の第二人称代名詞・対称詞－

Han Eliza (ハン・イライザ)

## 1. はじめに

日本語を勉強し始めた時に使っていた教科書に、よく「あなたは何歳ですか？」という人称代名詞が書いてあった。勉強をするにつれ、「あなたではなく、相手を名前で呼んでください」と先生に言われるようになった。日本語には「あなた」以外に「お前」「君」など多くの第二人称代名詞があると言われるが、「お前」や「君」なども使いにくいと聞く。なぜ使われていないのか、また使われないのになぜ多くの第二人称代名詞があるのか、非常に不思議に思っている。本レポートは、日本語の第二人称代名詞とそれに代わる語（名前や親族名称など）についての調査とその分析である。

## 2. 第二人称代名詞と対称詞

### 2. 1. 定義

人称代名詞というのは、英語で言えば「I」「You」「he」「she」などである。この中で「You」を第二人称代名詞という。日本語にも人称代名詞はある。それどころか、非常に数が多い。第二人称代名詞について言えば、「あなた」、「きみ」、「おまえ」などである。ところで、それらと同じように相手を示す言葉として親族名称や職業名などもある。ここでは、これらを全部まとめて、対称詞と呼んでいる。対称詞とは話の相手に言及する言葉の総称である。

### 2. 2. 対称詞の用法

対称詞の使い方は二つに分けることができる。一つは、呼格的用法と言い、相手呼びかける時や感情的に呼ぶ時に使われている。ギリシャ語など名詞活用のある言語にたくさん見られる。日本語では、「父よ」のように使うが、文語ではわずかに見られるが、全体的にあまり使わない。

もう一つは、代名詞的用法で、相手のことを指す時に使う。このレポートでは代名詞的用法に焦点をあてる。

### 2. 3. 他の言語と日本語の違い

英語などのラテン系の言語には会話中の役割が人称代名詞の交換により表現される。話し手は第一人称代名詞を使って、「今は自分が喋っている」ことを表す。これを能動的行為者という。他方、第二人称代名詞の方は、受動的行為者といい、聞き手を指し、聞く役割が与えられる。これらは相互相称で互いに交換しながら会話を進める。

ところで、日本語には、英語のようないわゆる“you”がない。“you”は「あなた」と

訳されることがあるが、日本語では「あなた」以外に「お前」や「君」など色々な表現があり、you=あなたではない。また、多くの第二人称代名詞があるものの、実際の会話ではあまり使われていない。さらに、ラテン系の言語と違って、日本語の人称代名詞の使われ方は非相称である。

日本語では、人称代名詞を含む対称詞は会話中の役割（話し手と聞き手）だけではなく、社会的な役割を明示する機能がある。社会的役割には比較的短期と比較的長期の二つの種類があり、短期間には、売り子と客、同じ乗り物にいる乗客間の関係が考えられる。長期間では、職業や家族、社会的な身分、男女の性別等により使い分けられる。

### 3. 日本語の第二人称代名詞の使用について

#### 3. 1. 使われにくい理由

日本語の人称代名詞は実際の会話ではあまり使用されないが、その理由としては、相手のことを直接に言うのはタブーだと考えられているからであろう。そのため、人称代名詞を使わず、間接的に言うことになっており、他の対称詞（固有名詞、親族名称など）を使う。これらは上下関係によって使い分けがなされる。

#### 3. 2. タブーである理由

ヨーロッパ諸語と違って、日本語の人称代名詞は歴史が短く、百年前後である。相手を直接に指すのは失礼なので、場所や方向を表す言葉を使って、相手のことを暗示する。例えば、現在人称代名詞とされているおまえやあなた、こちらなどは、前、あちらの方、こちらなどの場所を表す表現であった。

これらの人称代名詞はもともと、丁寧な言葉だったが、使えば使うほど敬意がだんだん減ってしまい、そのことにより、様々な第二人称代名詞がどんどん新しく作られた。しかし、敬意低減現象は必至である。

また人称代名詞の中にはもともと第一人称であったものが第二人称として使用されるという例もある。「てまえ」「われ」「自分」などで、反転対称と言われる。これらの二人称に転用された一人称は、相手が尊敬の対象に絶対ならないニュアンスがあるので、軽卑語と罵称と言える。この使い方は相手との関係が親しく呼んでいて、一体化だと思っている人もいる。話し手と聞き手はそれぞれ区別する必要がないほど仲良いから。

子供に対する「ぼく」と「あたし」のような反転対称は庇護という意味がある。子供を可愛がっているので、親切にするつもりで、自分の立場から相手である子供のレベルに降りる。

### 4. 日本語の対称詞

#### 4. 1. 第二人称代名詞以外の対称詞

日本語では、第二人称代名詞の使用はタブー視されているので、特に目上の相手には使

用が避けられる。その代わりに、親族名称（お父さん）や職業名（八百屋さん）、肩書き（社長）、固有名詞（花子、花子さんなど）などの対称詞で相手を指すことが多い。しかし、このような語であっても、全体的には相手のことを示す言葉はよく省略されている。

#### 4. 2. 親族名称

親族名称というのは家族達を家族の中の地位で呼ぶことである。そうすることによって、家族の一員として、与えられた役割が明らかになる。日本語には相互の役割を確認する仕方として、次の八種類がある。

- ① 自分のことを「お父さん」と呼んでいる父親は上位者である役割を言語的に表す。
- ② 自分のことを「お父さん」と呼んでいる父親は間接的に子供に従属的な役割をさせる。
- ③ 父のことを「お父さん」と呼んでいる子供は直接に父親に親としての役割を明示する。
- ④ 父のことを「お父さん」と呼んでいる子供は含意的に自分が子供としての役割を取ることを表明する。
- ⑤ 子供の名前を呼んでいる父親は上位者の役割を取る表明する。
- ⑥ 子供のことを人称代名詞で呼んでいる父親は自分が上位者であることを強化する。
- ⑦ 自分のことを名前で呼んでいる子供は、相手が上位者であること、つまり二人の役割を言語的に確認する。
- ⑧ 自分のことを名前で呼んでいる子供は下位者の役割を取ることを表す。



#### 4. 3. 英語などの言語との違い

英語には、4. 2に書いてある項目の③、④、⑤しかない。たまに、子供を非常に可愛く思っている父親が「son/sonny（息子）」と呼ぶこともある。そのため、子供は「son（息子）」という身分をはつきされるとの同時に、父親は親であることも強調され、この2つの確認方法を加えて、合計五種類となる。要するに、親族の上下関係の確認のし方という点からいえば、日本語には八種類があるのに対して、英語などでは普通三種類である。基本的な人間関係である親族の例を見ても、人称代名詞は上下関係を付与することが明らかになる。

#### 4. 4. 社会的な機能

社会的な機能（例えば部長などの地位名称）も親族名称と同じように、役割を示す。目上の相手に対しては地位名称を使えるが、人称代名詞は使えない。名前を使う場合でも、名前だけではなく地位名称も一緒に使わなくてはいけない。逆に相手が目下であれば、人称代名詞で呼べるが、地位名称で呼ぶことはできない。

また地位名称には、固定的な役割も付随している。「部長」と呼ばれている人は平社員の面倒を見たり、重い責任を持ったりすることになる。関係が明らかでない場合には、どの役割を取ればいいのか分からないので、会話者たちは不安定な気持ちになる。だから、対称詞は自分と相手の位置を明らかにさせる座標系のようなものである。

#### 4. 5. 関係の変化による対称詞

知り合ったばかりの時に、名前さえ知らぬうちに、人称代名詞を使うのは珍しくない。親しくなるにしたがって、ほかの対称詞を使うようになる。つまり、人称代名詞はだんだん使われなくなるわけである。例えば、新婚夫婦は結婚という契約に入ったばかりの時に、まだ慣れていないし、不安定なので、半ば意識的に夫としての、妻としての役割を演じる。たいてい夫は妻のことを名前で呼ぶが、妻は夫のことを名前か、あるいは「あなた」という代名詞で呼ぶ。

子供ができると、安定度が高まる。夫婦だけでなく、親である役割も与えられるからだ。家族の中の縦関係に入り、付き合い方は子供に基づくことになる。夫婦はお互いのことを「パパ」と「ママ」と呼ぶようになり、永続的な安定状態に入る。日本人の結婚は原理的にスタティックで不変だと言われている。

既に決まっている役割が変わった場合、いわゆる変化を受けにくい日本人はどうやって付き合ったらいいのか分からなくなる。例えば、妻が教授の夫の授業に出ると、夫は妻に対する自己規定と他の学生に対する役割が衝突してしまい、妻をどのように呼べばよいか迷うと言う。

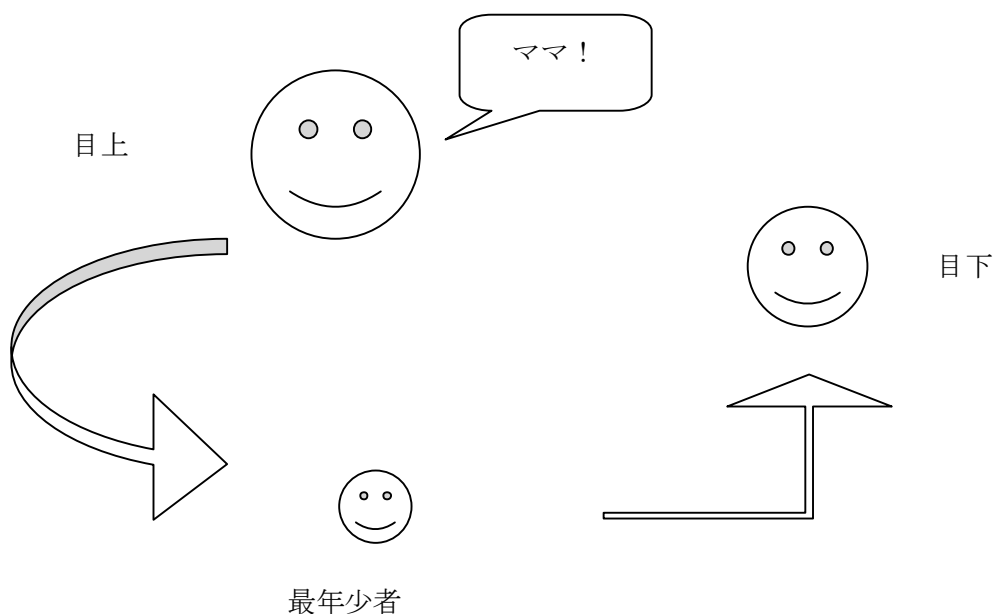
#### 4. 6. 親族名称の虚構的用法の第一種

知り合いに対しては、役割が含まれた対称詞が使われるが、見知らぬ人やまだ知り合いとは言えない関係の場合にも親族名称の虚構的用法が使用できる。これは、相手を仮に家族と見なすことによって、それに合った親族名称で呼ぶことである。例えば、お年寄りの男性のことを「おじいさん」と呼ぶ。友人の母親と話している時にも「お母さん」と呼んでもいい。友人の立場に移ってから、言うからである。また、私が町で年配の人から「お姉さん」と呼ばれたりするのも、この用法である。ただ、年配の人から見て私は年上ではないので、仮に家族としても「おねえさん」にはあたらない。これは、次の4. 7に紹介するもう一つの虚構的用法がプラスされたものだと思う。

他の言語ではこんな虚構的用法がなくて、必ず「誰かの誰々さん」と呼ばないといけないことが多い。例えば、A という友人の母親は「A のお母さん」となる。

#### 4. 7. 親族名称の虚構的用法の第二種

第一種との違いは自分より年下の相手のことを自分より年上の親族として呼ぶことである。例えば、あるお年寄りは娘と孫と一緒に電車に乗って席を見つけた時に、自分の娘に「ママここにいらっしやい」と声を掛ける。年下の相手に対しても、最年少者を原点にし、こういうふうに呼ぶことができる。日本語の特徴の一つは自己中心語である。自己中心語とは話し手によりその対象物が変わるものを言う。例えば、話し手が「右」と言っても、それは他者、例えば聞き手には「左」になってしまうものなどをさす。上の例なら、「ママ」がそれで、これは話し手によって異なる人物を指し示す。上の例では、自己中心語の他者中心的用法と言い、孫の立場から呼んだものであるが、それを省略しても誤解することがない。



上の例と同じように、二人の子供がいる時に、年上の子のことを虚構的な親族名称で呼べる。例えば、二歳の娘と四歳の息子がいれば、息子のことを「お兄さん」と呼んでいる親もいる。そうすることによって、息子の地位を少し高めているようだ。末っ子は親族名称で呼べないので、高めることができない。

家族ではない若い子に対しても親族名称が使える。例えば、若い女の子はよく、「お姉さん」と呼ばれるだろう。親類でも年上でもないけれども、虚構的最年少者の視点から見れば、年上になるので、「お姉さん」となる。

## 5. 第二人称代名詞の使用実態

### 5. 1. 先行研究—日本語母語話者

大浜・荒巻・曾（1999）は、日本語母語話者が自称詞と対称詞を実際どのような頻度で使用しているかを、インタビュー形式の会話資料を用いて調査している。結果は、2088 話者交替数の中で、対称詞と自称詞の使用が見られたものは、そのうちの 10.6% しかなかった。対称詞はその中の 1.5% にすぎなかった。母語話者の自然会話によれば、日本語では対称詞と自称詞がよく省略されることが明らかになった。中でも特に第二人称代名詞を避けるようにしている現象が見られることがわかった。なお、使われた場合は、対比や話題導入、特定、明示、強調という機能を持っていた。

### 5. 2. 先行研究—非日本語母語話者

大浜・荒巻・曾（2001）では、日本語教科書における自称詞と対称詞の使用頻度の調査も行っている。18 冊の教科書の会話部分の分析によると、教科書によって使用頻度に大きな差はあったものの、平均自称詞は 57.8%、対称詞は 42.2% と高頻度で、母語話者の自然会話との違いは明白であった。

## 6. インフォーマルな調査

### 6. 1. 調べたいこと

参考文献や先行研究を読んだ後、自分自身が日本人たちにどういうふうに呼ばれるのか大変興味を持つようになった。先行研究で言われていることが本当にそうなのかが知りたくなって、インフォーマルな調査をすることにした。調査は、2007 年二月末から七月末にかけて、周りの人が私のことをどのように呼んでいるのか、呼ばれたたびに記録していくというものである。

### 6. 2. 記録の仕方

この五ヶ月に自分が呼ばれたことを、日本人と外国人の二つのグループに分類し、記録していった。このことにより、日本人と外国人が使っている対称詞に違いがあるかどうか分かるのではないかと考えた。

これらの集計は、以下の2グループに分けて行なった。

- ① 使用者別人数の方は、同じ人に同じ表現で呼ばれた場合は、それらを一つとして数えた。例えば、三月一日にも二日にも花子さんに「イライザさん」と呼ばれたとしたら、「イライザさん」の数を一つとした。
- ② 延べ回数の方は、同じ人に同じことと呼ばれても別々として数え上げた。例えば、昨日花子さんに「イライザさん」と呼ばれば、「イライザさん」の数に入っていました。今日も花子さんに「イライザさん」と呼ばれたら、またもう一つとして入れた。

### 6. 3. 結果と分析

表1 どの人にどんな表現で呼ばれた

		①使用者別人数	②使用延べ回数
日	固有名詞	74 (71.2)	241 (85.2)
	あだ名	0 (0.0)	0 (0.0)
	親族名称	2 (1.9)	2 (0.7)
	社会的役割	7 (6.7)	7 (2.5)
	人称代名詞	21 (20.2)	33 (11.7)
	合計	104 (100.0)	283 (100.1)
外	固有名詞	23 (67.6)	155 (67.7)
	あだ名	3 (8.8)	4 (1.7)
	親族名称	0 (0.0)	0 (0.0)
	社会的役割	0 (0.0)	0 (0.0)
	人称代名詞	8 (23.5)	70 (30.6)
	合計	34 (99.9)	229 (100.0)

固有名詞としては、イライザ、ハンイライザ、イライザさん、ハンイライザさん、ハンイライザ様、ハンさん、イライザちゃん、エリザ、エリザさん、ハンエリザベスさん、イさん、ハン様が使用された。

あだ名としては、イライザルとおばあさん（年下の友人がいたずら心から使用）の二種類であった。

親族名称には、お姉さんが、社会的役割語には、お客様が使用された。

人称代名詞としては、あなた、あんた、おまえ、きみ、あなたがた、自分たち、あなたたちが使用された。



ここで外国人というのは、日本人以外の人を指し、その出身国はインドネシア、ドイツ、モンゴル、ベトナム、香港、中国、ウズベキスタン、フィリピン、インド、台湾、アメリカ、ネパールである。本調査ではこれらの外国人と日本語で会話した際のものだけを記録した。

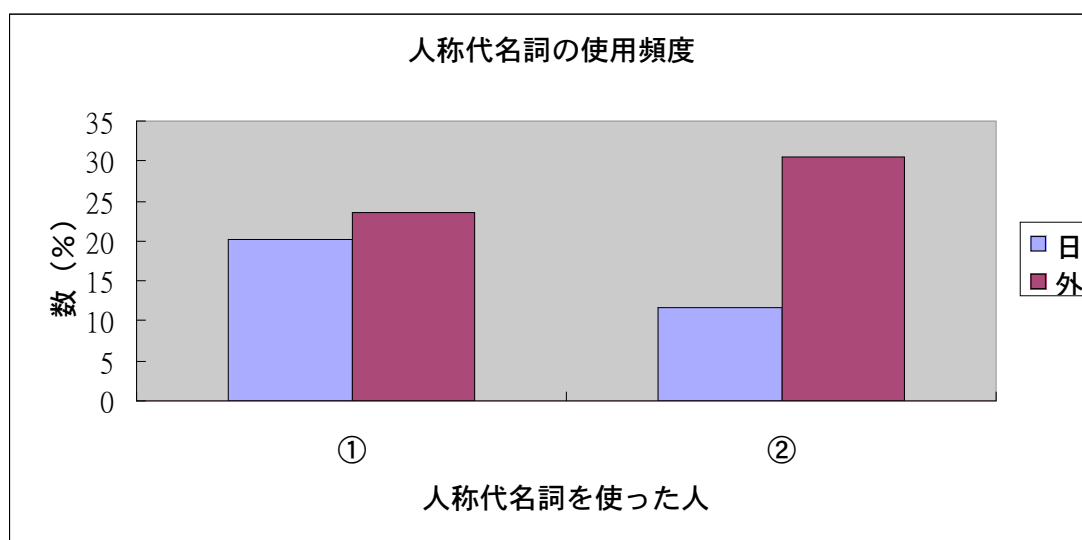


図1 人称代名詞が使われた頻度

図1 を見てみたら、日本人と外国人の人称代名詞が使われた比率は明らかになる。日本人より、外国人は人称代名詞を使うことが多い。

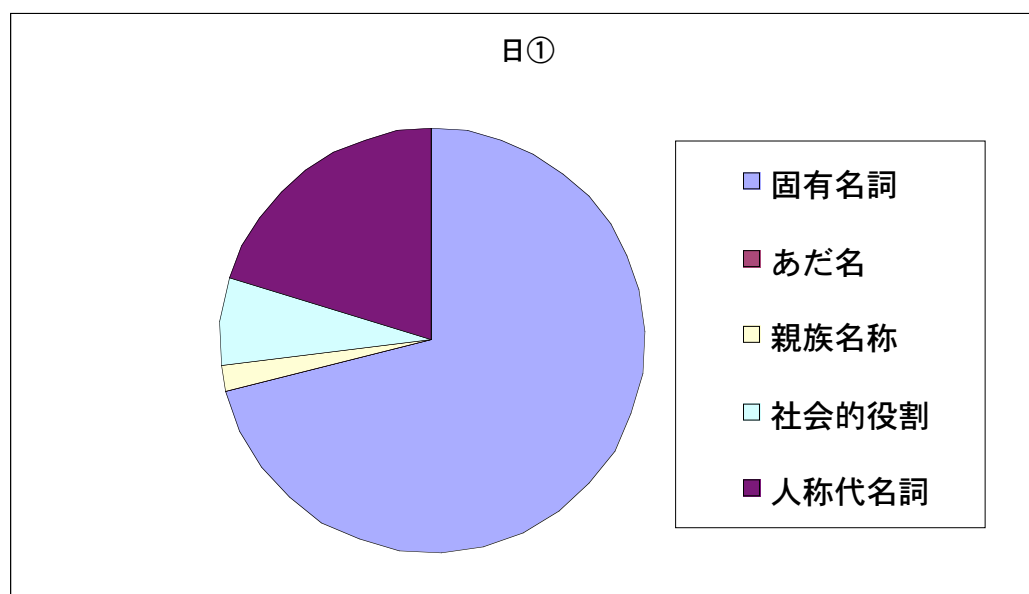


図2 使用者人数別に見た対称詞の割合（日本人の場合）

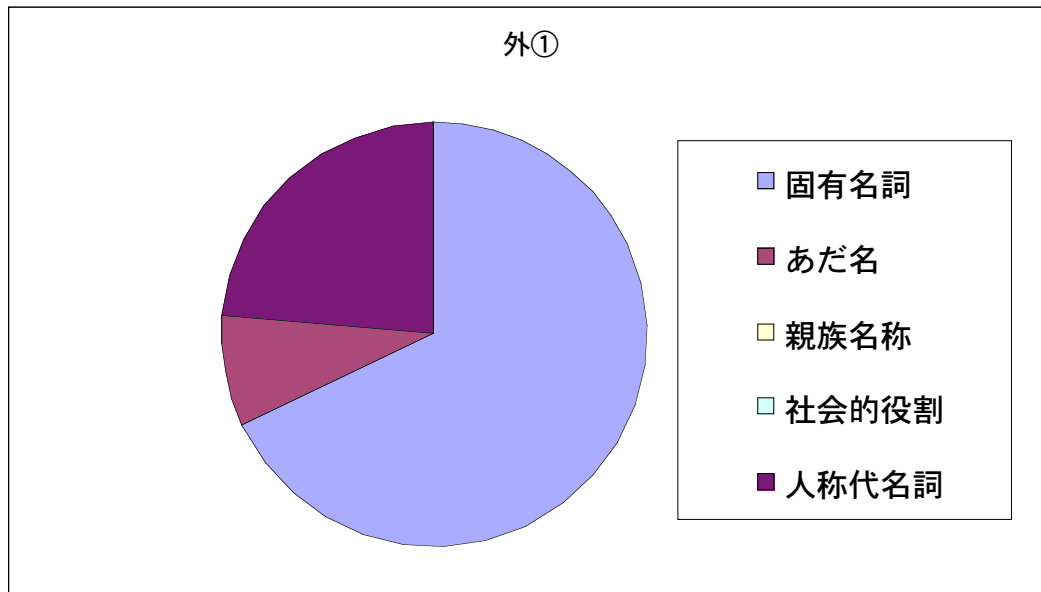


図3 使用者人数別に見た対称詞の割合（外国人の場合）

図2と図3を見ると、日本人と外国人の人称代名詞使用頻度はあまり変わらないようである。しかし、日①の20.2%の中で、半分以上は大学の先生が使われたのである。他にはホストファミリーや先輩などの目上の相手に呼ばれたのである。一方、外①の場合は、私のことを人称代名詞で呼んだ23.5%の人は、全員同級生である。日本人と違って、外国人は上下関係について意識せず、人称代名詞を使っていると言えるであろう。

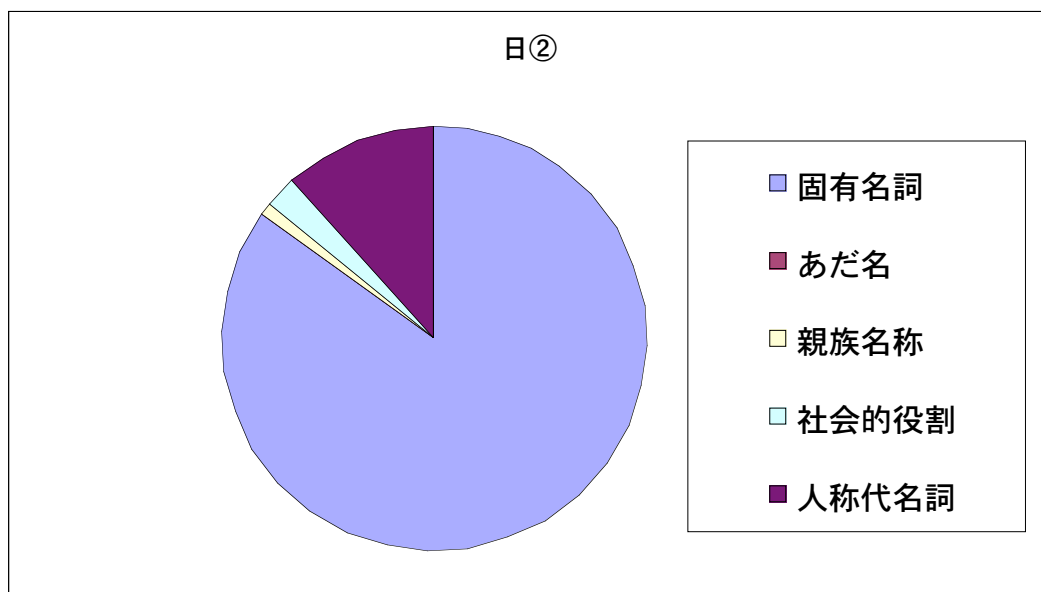


図4 使用延べ回数から見た対称詞の割合（日本人の場合）

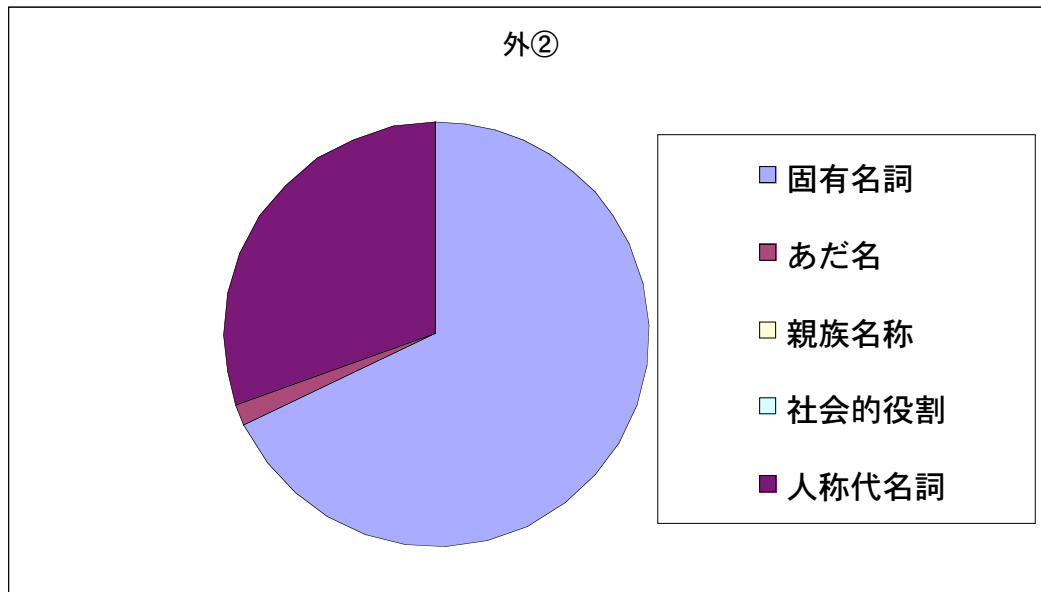


図5 使用延べ回数から見た対称詞の割合（外国人の場合）

インフォーマルな調査の結果を先行研究と比べると、日②の11.7%は自然会話の14.0%（大浜・荒巻・曾 2001）に近い。外②は30.6%となり、教科書の中にある会話の32.5%（大浜・荒巻・曾 2001）に似ていると言えるだろう。

表1の①（使用者別人数）と②（使用延べ回数）の合計を比較してみれば、外国人のほうが急に上がってくる。例えば、①に日本人は104人がいて、外国人は34人しかいない。しかし、②に日本人は283人がいるけど、外国人の数も229人となる。これは、もしかすると外国人との付き合いはある決まった人に限定されていたのかもしれない。あるいは、日本人の場合、対称詞を省略することが多かったのかもしれない。対称詞はどんな時に、なぜ省略するのかも調べたいが、残念ながら、それは今後の課題である。

## 7. おわりに

日本語の第二人称代名詞は他の言語と違って、特別な使い方やニュアンスを持っている。相手のことを尊敬するのを言葉で表すために、あなたなどの暗示的な第二人称代名詞が作られた。しかし、使用につれて、敬意減少が避けられないことになったので、第二人称代名詞は僅かに使われている状態となっている。相手との関係によって、第二人称代名詞を使う時もまだある。第二人称代名詞以外の対称詞のほうが使いやすく、話し手と聞き手の役割もはっきりさせる。日本人母語話者と非日本語母語話者の対称詞の使用を調べてみると、非日本語母語話者のほうがよく対称詞と、対称詞の一つの第二人称代名詞を使っていることが明らかになった。

**参考文献：**

鈴木孝夫（1973）「ことばと文化」第六章『人を表すことば』 pp.129-206 岩波新書

縫部義憲（2006）「講座・日本語教育学 大二巻 言語行動と社会・文化」第二章『待遇・敬意表現』 pp. 121-127 スリーエーネットワーク

大浜るい子・荒牧ちさ子・曾儀婷（2001）「日本語教科書に見られる自称詞・対称詞の使用について」『中国四国教育学会 教育学研究紀要』第47巻2部